



液化炭酸ガスボンベの取扱い上の注意

液化炭酸ガスの危険性

- ① 高圧ガスです。
- ② 高濃度のガスを吸引すると、息苦しくなり酸素欠乏状態となるおそれがある。
- ③ 吹き出した炭酸ガスや凍結しているボンベにふれると、凍傷を引き起こすおそれがある。

酸欠/凍傷時の応急処置

- ① 高濃度のガスを吸引した時は、被災者を直ちに新鮮な空気のある場所に移し、体を温め安静を保つ。また、速やかに医師の治療を受ける。
- ② 凍傷にかかったら、患部はさすらないで、ぬるま湯で温めガーゼ等で軽く包み、速やかに医師の治療を受ける。

ボンベの保管・取扱い上の注意

- ① 換気の良い場所に置き、乱暴に取り扱わない。



- ② クサリで壁などにしっかり固定し、必ず立てた状態で保管・使用する。

重量物のため倒れると、ケガをするおそれがある。また横にして使用すると液化炭酸ガスが減圧弁（圧力調整器）内に流れ込みガス漏れや故障のおそれがある。



- ③ 火気、直射日光を避け、ボンベが40℃以上にならないよう保管、および使用する。また、火災時にはボンベから速やかに避難する。

炭酸ガスは不燃性であるが、ボンベ温度の上昇で内圧が上がり、安全弁（安全装置）が作動して、炭酸ガスが噴き出すおそれがある。



炭酸ガスが吹き出した時の処置

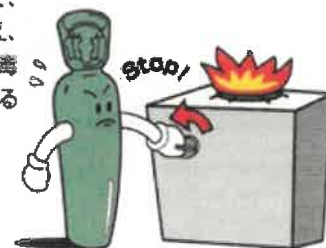
- ① あわてず、漏れた箇所から直ちに避難し、立入を禁止し、十分に換気を行う。

いったん安全弁（安全装置）が作動し炭酸ガスが噴き出すと、ボンベの中身が無くなるまで止まらない。炭酸ガスは空気より重く、低い場所に滞留しやすいので注意。



- ② ガスコンロ等の火気を速やかに止める。

炭酸ガスが噴き出すと、ガスコンロ等の火が消え、都市ガスによるガス中毒等の二次災害につながるおそれがある。



ボンベ輸送上の注意

- ① 車両の見やすいところに「高圧ガス」の警戒票を掲げる。
- ② ボンベは、その温度を常に40℃以下に保つ。
- ③ 転倒・転落による衝撃を防止し、乱暴に取り扱わない。保護キャップは必ず取り付けておく。

ガスボンベの返却

- ボンベに残ったガスはそのままで返却する。

容器の廃却は容器所有者が法規に従って行うものであるから、使用者が勝手に行ってはならない。